

むらからくにへ 変化の過程を探ろう！

6年社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」

1 目標

- ・遺跡の様子や地図などの資料を活用して、当時の生活の様子や大和朝廷による統一の様子について理解できる。
(知識・技能)
- ・資料から分かったことをもとに当時の様子を考え、世の中の変化を考えている。
(思考・判断・表現)
- ・人々のくらしや大和朝廷による統一について、追求し、当時の様子に迫ろうとすることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

2 子どもの実態

本学年の子どもたちは、資料から必要なことを読み取る力をもっている子が多く、資料から分かることを数多く見つけ出すことができる。一方で、読み取ったことからその理由を予想し、自分の考えをもつことに苦手意識をもっている子が少なくなかった。そこで、日本の政治の考え方や仕組みの学習では、学習の最後に模擬選挙を行い、それぞれが候補者の意見を吟味し、本当に任せられるかを考えた。自分の意見をもって投票することにより、国民の一人一人が責任のある1票を投票することの大切さに気付くことができた。課題を自分事としてとらえ、自分の考えに自信をもつことができた子も少なくない。しかし、子どもたちは一面的な考えにとらわれていることが多く、様々な角度、立場から物事を捉える力が十分とは言えなかった。今後は、歴史上の事象を学ぶ中で、他面的、多角的な見方を養っていきたい。

3 単元観

本単元を通して、複数の資料を読み取り、友達と意見交流をしながら、根拠を明確にして自分なりの考えられる場面を設定する。縄文時代のむらのくらしから、弥生時代を経て、古墳時代のくにへと変わっていく様子を学習するなかで、学習のふり返り【まなふり】を、それぞれのくらしの様子を自分の言葉でまとめるように書かせ、1時間の学びを整理させたい。その上で【ふりふり】を行い、縄文時代と弥生時代の生活の変化を比べ、くらしが大きく変化した理由について、発展を支える食料生産に関わる視点を獲得できるようにしたい。また、今後の生活の変化について予想を立てさせることで、次時への関心を高められるようにしたい。

古墳時代、大和朝廷の成立の学習では、古墳が多い土地や朝廷の力の広がりや、地図資料を使って学習する。古墳作りに参加した人たちの人数の多さや、平野部に多いことから、米作りと関連させて当時の様子を考えたい。終末には【ひろふり】を行い、現在の生活との違いや、学習で得た見方・考え方を整理し、自分の変容や、できるようになったことに気づけるようにしたい。

4 単元計画

時間	学習活動	意図・工夫
1	<u>縄文時代のくらしについて知ろう</u> ・三内丸山遺跡について知る。 ・出土品から、縄文時代のくらしを考える。	・遺跡や出土品の写真、縄文時代の1年が分かる資料から、縄文時代の人々の生活について考えられるようにする。その際、「狩猟」や

	<p>【まなふり】 縄文時代の生活について、縄文人になったつもりで心のつぶやきを書こう。</p>	<p>「採集」をキーワードにする。 ・安定して食料が確保できなかったことに気付かせ、次時へつなげられるようにする。</p>
2	<p>弥生時代の暮らしについて知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板付遺跡について知る。 ・出土品から、弥生時代の暮らしを考える。 <p>【まなふり】弥生時代の生活について、弥生人になったつもりで心のつぶやきを書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代との変化を確認しながら、弥生時代の生活について考えられるようにする。 ・米づくりの様子が分かる資料から、「米づくり」がさかんに行われるようになったことを読み取れるようにする。
3	<p>縄文時代から弥生時代の暮らしの変化について考えよう 【ふりふり】(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代、弥生時代の暮らしをふり返り、それぞれの生活についてまとめる。 ・時代が進むにつれ人口が増加したことを知り、前時までの学習や資料からその理由を考える。 <p>【まなふり】時代とともに変化した暮らしについてふり返り、今後どうなっていくかを予想しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をふり返り、それぞれの時代の生活の違いを意識しながら、なぜ生活が変化したのかについて根拠をもとに話し合う。 ・「米づくり」が生活を大きく変化させたことに気付けるようにする。 ・これまでの時代の流れをふまえて、今後どのように暮らしが変化していくのかについて考える。
4	<p>どのようにむらからくにへ変わっていったのか考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米づくりの広がりによって、むらがどのようにくにへと発展したのか調べる。 <p>【まなふり】前回の予想と比べながら、驚きや新たな発見をまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの時代の想像図を比較しながら、人口以外にも変化したところはないか考える。 ・それぞれの時代の想像図、吉野ヶ里遺跡や出土品の写真から、むらからくにへどのように変化したか読み取る。
5	<p>古墳について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳について資料から分かることを発表し、古墳づくりの目的や意味について考える。 <p>【まなふり】古墳づくりの良い点、悪い点をそれぞれ考えて書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳づくりの想像図から、王や豪族が力を誇示するために、大きな古墳を作ったことに気付けるようにする。
6	<p>大和朝廷の広がりについて調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和朝廷の力がどのように広がり、国土が統一されたかを調べる。 <p>【まなふり】大和朝廷の力が広がっていく様子で、一番驚いた意見を理由と共に書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大和朝廷の力の広がり分かる資料から、どのように国土が統一されたか、話し合いながら予想する。
7	<p>これまでの学習をふり返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時の人々の暮らしと、現在の暮らしを比べながら縄文時代から、大和朝廷の成立までの学習をふり返る 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのふり返りを見返し、自分がこれまでどのように考えを変化させたり、新しい見方・考え方を身に付けられたかをふり返れるようにする。

5 本時の目標（3／7）

- ・狩猟や採集を中心とした暮らしから、米作りを中心とした暮らしへの変化について理解することができる。 （知識・理解）
- ・人口の増加と暮らしの変化を関わらせて考え、食料生産の重要性について話し合っている。 （思考・判断・表現）
- ・食料生産と人口の変化を、関連づけて考えようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）

6 本時の構想【ふりふり】

まず、縄文時代と弥生時代の学習をふり返ることで、今までの学びを整理する。その際、キーワードとなる、「狩猟」「採集」や「米づくり」を意識させたい。途中で、時代と共に変化した生活に伴い、人口が爆発的に増えたことを示し、その理由はなにか、自分たちのふり返りから根拠を見つけ出させることで、食べ物が安定して手に入るようになったからであると気付くことができるだろう。また、本時の学習をふまえて、次時の学習への意欲を高めるために、単元の終末には、時代が進んで行く中で今後どのような変化が起きるか予想させたい。

7 準備

縄文時代と弥生時代の人口分布図、縄文時代のくらしの様子絵、弥生時代のくらしの様子絵

8 本時の流れ

時間	学習活動	留意点など
0 2 9	○めあてと本時の学習内容を確認する。 ○前時までに学んだ縄文時代のくらしについてふり返る。 ・「狩猟」「採集」をして生活していた。 ・安定して食べ物を得ることができなかった。 ○前時までに学んだ弥生時代のくらしについてふり返る。 ・「米づくり」が始まった。 ・食べ物を保存できるようになった。	・初めに自分のふり返りを読み、これまでどんな学びがあったか思い出させる時間を取る。 ・前時までのふり返りを把握しておき、キーワードを中心に、いろいろな意見が出るように意図的に指名をする。
16	○時代の変化に伴い、人口が爆発的に増えたことを知り、人口の分布図、それぞれのくらしの予想図などの資料を示し、なぜ人口が変化したのかについて考える。 ・栄養がある「米」を安定して作り、保存することができるようになったから。 ・人々をまとめる指導者が現れ、協力することができるようになったから。 ・食糧を確保するための道具が発達してきたことにより、たくさん取れるようになったから。	・指導者のもと、協力して「米づくり」を行うこと、発達した道具を使うことで、安定して食糧を得ることができるようになったことに気付かせる。 ・次時へとつながる、むらやくに同士の争いについて気付いた児童の意見を取り上げ、その理由を考える時間をつくる。

35	<p>○学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「米づくり」が広がるとともに、安定して食糧を生産できるようになった。これからは、もっと人口が増えていくと思う。 ・指導者が生まれ、協力して作業ができるようになった。でも、人が住む地域がだんだんと広がり、隣り合う指導者同士で争いが起きるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている児童には、「○○になったから、△△ができるようになった。これからは…」という形で書かせ、根拠を明確にしながら変化をまとめられるようにする。
40 45	○ふり返りを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時をふまえ、次時につながる考えが書けている児童を2～3人指名する。

9 板書計画

